

## ズバリ答えます

富士谷市長は、新庁舎の建設計画をどんどん前倒ししていますが、それでも庁舎の本体の建設は、1月31日に業者が決まったところで、杭一本うたれてません。建物を建てる**工事の進捗率は0%です。**

Q 庁舎の建設業者が決まったので、もう庁舎建築を止められないんじゃないですか？

A 建築業者が決まったからと言って、すぐ建つわけではありませんから、工事の中途でも契約を解除して建設を止められます。

Q 工事を中途解約したら違約金を業者から要求されませんか？

A 要求されると思います。最低限（仕入れた原材料費など）の違約金は支払う覚悟です。相場からいえば、建築費全体の5%程度だと思われまます。違約金を払っても4億から5億円程度で、60億円の借金をするよりは

るかに安くつきます。富士谷市長は、医療センターのPFI方式を中途で解約して20億円支払いました。が、それよりもずっと少ない金額です。

Q 今の市役所の庁舎は、耐震基準に満たないということを立て替えることになったと聞きます。建て替えは必要だと思いますが？

A はいそうです。耐震基準に満たないとわかってから、富士谷市長は10年間何もせずに放置してきました。新庁舎建設が止められたら、現庁舎で最低限の耐震補強工事をすぐに行います。旧安土支所と合わせて5億円程度でできる見積もりができています。その後、オリンピックが終わってから、建築資材などの値下がりを待って、病院跡地に今の計画の半分程度の床面積の庁舎を建設します。

Q 富士谷市長は、ワンストップ機能の充実をいっています。が、そのことはどうなります

か？

A 行政機能のワンストップ化は、病院跡地に建てるコンパクトな庁舎でも実現できます。私たちの見積もりでは、今の計画の半分の床面積で、現在庁舎外にある行政機関の職員もすべて新しい庁舎に入って仕事ができるスペースを確保できる。そのため、手続き的なことは、すべて一つの庁舎内で済ませることができま

す。また、将来的なことを考えればIT機器の発達により、最寄りのコミセンや、コンビニ、自宅などから手続き的なことは済ませられるようになっていくことが十分考えられます。そうなら、余計に大きな庁舎は必要なくなり、市役所に向いての手続きがなくなっていく

Q 防災対策は進めてほしいのですが？

A 市の防災計画には、10%の市民に3日間の食料を渡せ

るように備蓄することが明記されていますが、避難施設を確保することは書かれていません。市長は、庁舎で仮設住宅ができるまで避難できるようにすると言っています。設計図面を見ても、新庁舎に数ヶ月宿泊できるような部屋は見当たりにません。市の防災計画で、避難所の拠点としているのは、運動公園です。

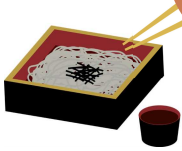
「10%の市民が3日間避難できるように」という市長の根拠や防災計画との整合性がよくわかりません。市の防災計画の想定では、災害発生から三日以内で避難所生活者の最低人数が39名で最高が10176名です。想定者数に、大きな開きがある中で、スローガニックに「10%3日間」ということをいうのでなく、地域に合わせた計画を話し合っ

て決めていくべきではないでしょうか。





# もりかけ問題



Twitter

## 元気園問題

### 元気園偽装公募の疑い

安土、悠々元気園を障がい者福祉の拠点施設に変えるという問題で、住みよい近江八幡市をつくる会が報道発表し、カンテレのニュースでも取り上げられ、重大な疑惑が浮かび上がってきています。

昨年7月、地元の人たちに、突然、悠々元気園の閉鎖と障がい者福祉の拠点施設への変更が告げられ、21日間という短期間の入札期間で、運営法人募集がされました。結果は、岡山県の三穂の園という法人1社だけの応募で、選定されました。これに対して、地元の障がい者施設を運営する法人から、「急な話で、理事会で入札の協議をしている時間も無い。」と強い不満の声が上がリ、井上佐由利議員が事情を調査し、9月議会で取り上げました。その時の議事録は以下のようになっています。

(井上佐由利君) もう一つ、今回の岡山、先ほどの三穂の園

でしたっけ、岡山の法人さんは募集に関しては情報も市内の法人さんと同じように知らなかったということでしょうか。そういうことね。情報を例えれば前もって知っておられたとか、そういうこととはありませんですよ。

○議長 回答を求めます。

◎福祉子ども部長 公募の条件につきましては、同様に募集をしておりますので、同一条件であるということになります。

しかし、実際は、1年前の2016年8〜9月に、県の障害者福祉施設の整備予定調査用紙に、近江八幡市は、三穂の園による施設「住倉安土元気園」の創設を明記していました。これは、明らかに議会答弁とくいちがいます。

## 新庁舎問題

落札率99.71%、しかも1社だけの入札で、新庁舎の建築業者を決定

落札率99.71%というだれもが談合を疑うような落札率なのに、市総務部長は、「厳

格な積算によって市も業者も入札額が一致した」という姿勢です。平成28年度と平成29年度の市の発注工事や業務委託での平均落札率は、70.25%です。また、昨年新庁舎を建てた甲賀市の場合を見ても、「設計段階から約6億円下回った。(市議会だよりNo43)」となっているのに、この落札率で平気でいられることが信じられません。これだけ「100億円庁舎はいらない」という多くの声が、署名となつてとどけられていたのに、市民無視といわれてあたりまえです。

**落札率**  
業者の受注額  
市が設定した入札予定価格

※率が高いほど市の予定価格に近い



ホームページ

## 住みよい近江八幡市をつくる会

代表 檜山 秋彦

事務所 近江八幡市小船木町778-7

☎/📠 0748 (31) 0977

URL <http://aozorast.com/index.html>